

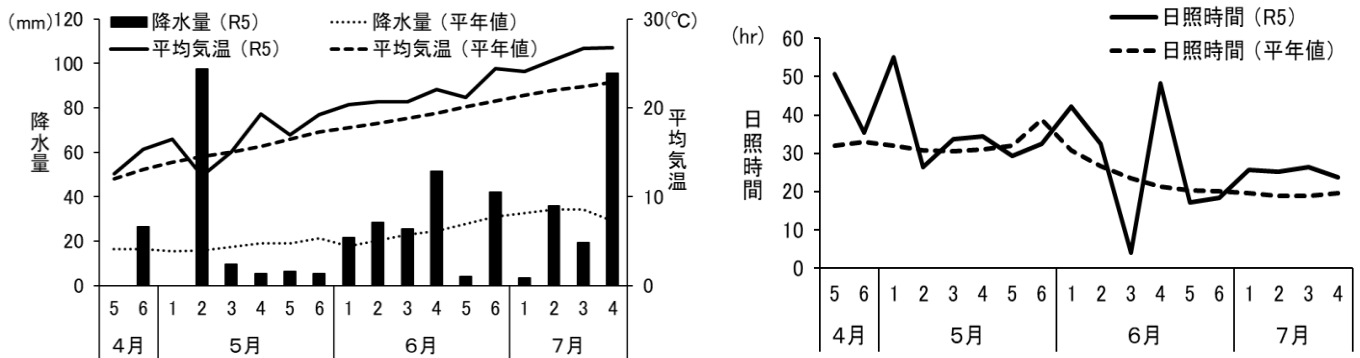
# 仙台稲作情報 2023 (第6号)

宮城県仙台農業改良普及センター TEL: 022-275-8410 FAX: 022-275-0296  
 http://www.pref.miyagi.jp/sd-nokai E-mail: sdnokai@pref.miyagi.lg.jp

## 栽培管理のポイント

- ▷追肥や斑点米カメムシ類の防除等は、生育ステージを確認して実施しましょう。
- ▷適切な水管理により高温障害を回避しましょう。
- ▷いもち病に注意してほ場を見回り、発生が確認されたら直ちに防除しましょう。

## 1 気象経過



- ・7月上旬は、高気圧に覆われて晴れや曇りの日が多く、旬平均気温は平年より高く、旬間日照時間は平年より多く、旬降水量は平年より少ない状況でした。
- ・7月中旬も平均気温が高い日が続き、降水量は7月第4半旬にまとまった降雨があった影響で多くなっています。

## 2 管内の生育状況 (7月20日の調査結果)

### (1) 移植栽培 (ひとめぼれ)

- ・草丈の管内平均値は77.7cmで概ね平年並、莖数は422本/m<sup>2</sup>で平年より1~2割程度少ない状況です。葉色(GM値)は32.5で、減数分裂期の目安より小さい値です。
- ・幼穂長は87.8mmで、前年及び平年より進んでおり、既に減数分裂期に達しています。減数分裂期には管内平均で7月15日頃に入ったとみられ、前年より6日早い状況です。**出穂期以降も生育が早いと予想されるため、今後の管理や病害虫防除の時期に注意してください。**

表1 7月20日の調査結果

品種	地帯	場所	田植日	草丈 (cm)			莖数 (本/m <sup>2</sup> )			葉色値 (GM値)			幼穂長 (mm)		
				本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
ひとめぼれ	仙台湾沿岸	仙台市宮城野区	5/14	73.1	101	105	309	83	77	32.3	-6.7	-5.0	50.0	+32.7	+20.2
	北部平坦	大郷町鷲崎	5/13	79.8	108	106	471	87	83	31.0	+1.0	-4.5	57.3	+43.6	+33.4
	西部丘陵	仙台市泉区	5/11	80.3	113	113	486	88	91	34.2	+0.7	-2.1	156.0	+30.0	+33.4
	管内平均			77.7	107	108	422	86	85	32.5	-1.7	-3.9	87.8	+35.4	+29.0
ササニシキ	北部平坦	大和町鶴巣	5/16	83.6	-	-	402	-	-	36.0	-	-	165.0	-	-
	仙台湾沿岸	仙台市若林区	5/15	81.3	105	105	429	80	83	36.0	-1.5	-1.3	150.5	+97.7	+95.7
	管内平均			82.5	-	-	415	-	-	36.0	-	-	157.8	-	-
だて正夢	北部平坦	大郷町土橋	5/19	75.3	98	100	363	91	90	34.9	-1.6	-2.2	7.0	+4.9	+2.0
	仙台湾沿岸	仙台市若林区	5/10	84.8	104	-	344	87	-	37.3	-4.4	-	48.9	-13.0	-
	管内平均			80.1	98	-	353	89	-	36.1	-3.0	-	28.0	-4.1	-
金のいぶき	仙台湾沿岸	仙台市若林区	5/10	82.6	-	-	443	-	-	33.2	-	-	29.3	-	-

※平年比の計算は、直近3か年の平均値を使用。大和町鶴巣「ササニシキ」及び仙台市若林区「金のいぶき」は、新規生産者のほ場であるため平年値なし。

## (2) 乾田直播栽培

草丈は76.1cm、茎数は573本/m<sup>2</sup>で概ね前年並となっています。葉色(GM値)は32.7で減数分裂期の葉色は確保しています。幼穂長は55.0mmで、幼穂形成始期は7月11日頃、減数分裂期には7月18日頃から入ったと推測されます。

表2 7月20日の調査結果

品種	地帯	場所	播種日	苗立数 (本/m <sup>2</sup> )	草丈 (cm)		茎数 (本/m <sup>2</sup> )		葉色値 (GM値)		幼穂長 (mm)	
					本年	前年比 (%)	本年	前年比 (%)	本年	前年差	本年	前年差
ササニシキ	仙台湾沿岸	仙台市若林区	4/6	163.5	76.1	104	573	94	32.7	-3.0	55.0	+47.9

## 3 地帯別生育ステージの予測

出穂期の予測は以下のとおりです。平年より出穂期が早くなると予想されています。

表3 出穂期の予測 (7月21日現在 古川農業試験場)

地帯区分	出穂始期	出穂盛期	穂揃期
北部平坦	7/24	7/28	8/7
南部平坦	7/22	7/26	8/8
仙台湾沿岸	7/22	7/26	8/6
西部丘陵	7/29	8/1	8/13
山間高冷	8/4	8/6	8/13

注1) 生育予測に用いるデータ ①日別平均気温(アメダス)、②移植時期、③移植時の葉数(県平均値3.0葉)

注2) 各地帯区分で使用したアメダス地点は以下のとおり

北部平坦：大衡、南部平坦：白石、仙台湾沿岸：名取、西部丘陵：蔵王、山間高冷：新川

注3) 6月4日までアメダスデータ実測値を使用、7月5日以降はアメダス平年値を使用

注4) 出穂始期、出穂盛期、穂揃期は、それぞれ水稻作付見込面積の5%、50%、95%以上が出穂した日

注5) 対象品種「ひとめぼれ」

## 4 本田管理

### (1) 移植栽培

#### 1) 水管理

・穂ばらみ期から出穂、開花期前後は水の吸収量が最も多い時期です。低温時を除き、十分に水を与えつつ酸素を供給する間断かんがいをを行い、根の活力を維持しましょう。

・出穂後5～15日の最低気温23℃以上が連続する高温の場合、白未熟粒が多発し品質の著しい低下を招く危険性があります。緊急的な対策として、気温よりも温度の低い用水を十分に掛流す「掛流しかんがい」が有効ですが、用水量が少なくても水温や地温等の上昇を抑止する方法として、以下の2つの方策があります(掛流しかんがいより効果は劣ります)。

#### ○基本的な水管理

- ▶ 穂ばらみ期…間断かんがい
- ▶ 出穂・開花期…浅水
- ▶ 登熟期…間断かんがい

(イ) 走り水により土壌をつねに湿潤状態に保つ「保水管理」

(ロ) 高温時の昼間はできるだけ深水管理とし、夜間は逆に落水管理とする「昼間深水・夜間落水管理」  
→午前9～10時頃にかん水し、午後4時頃に落水する管理。

#### 2) 追肥

・葉色が低下しているほ場が散見されます。ほ場をよく観察して適切な追肥を行い、穂揃期の葉色維持に努めましょう。(表4～6)

・ほ場により生育が異なるので、幼穂長や葉耳間長による生育ステージの確認を必ず行いましょう。

・基肥に穂肥の時期まで肥効のある緩効性肥料を施用した場合または復元田の場合は、倒伏が懸念されるため原則として追肥は行いませんが、葉色が落ちる場合は追肥を検討しましょう。

・「だて正夢」は、葉色が濃い品種です。周辺ほ場に比べ、色が濃くなり追肥を抑えがちですが、穂揃期の葉色維持による登熟向上に向けて適正な追肥を実施しましょう。

・「金のいぶき」の葉色は幼穂形成期頃から「ひとめぼれ」より淡く推移します。急な葉色の低下

に注意し、登熟向上のために表5、6の目安で2回の追肥を基本として実施しましょう。

表4 生育ステージの目安

生育ステージ	幼穂長	葉耳間長	出穂前日数
幼穂形成期	1~2mm	—	25~20日
減数分裂期	30~120mm	-10~0cm	15~10日

表5 生育ステージにおける葉色の目安 ※葉緑素計（GM値）

品 種	幼穂形成期	減数分裂期
ひとめぼれ	38~40	35~37
ササニシキ	34~36	32~34
だて正夢	40~42	37~39
金のいぶき	33~35	30~32
つや姫	35~37	31~33
まなむすめ	35~37	36~38

表6 追肥の目安

品 種	窒素施用量（成分量/10a）	
	幼穂形成期	減数分裂期
ひとめぼれ・金のいぶき	1.0kg	1.0kg
ササニシキ	—	1.0~1.5kg
つや姫・まなむすめ	2.0kg	—
だて正夢	— （茎数が少ない場合は 1.0kg）	2.0kg （幼穂形成期に1.0kg追肥 した場合は1.0kg）

### 3) 病虫害防除

#### ①いもち病

- ・7月16日には大衡のアメダス地点で、葉いもちの感染好適条件が出現していますので、発生に注意してください。
- ・7月中旬以降は、予防粒剤（箱施用剤、水面施用剤）の効果が低下し始めます。また追肥で一時的に稲体窒素濃度が高くなり、いもち病に対する抵抗力が弱くなるので発生に注意しましょう。
- ・上位葉での葉いもちの発生は、穂いもちの重要な伝染源になります。ほ場をよく観察し、発生が確認された場合は直ちに茎葉散布剤で防除しましょう。特に窒素過剰により稲が軟弱徒長気味で葉色が濃いほ場は、早期発見、早期防除に努めましょう。
- ・穂いもちの予防粒剤は、出穂30~5日前に使用する剤が多いので、生育状況をよく観察し、出穂期の予測に基づき適期に散布しましょう。
- ・7月10日に病虫害防除所から葉いもちに関する防除情報が発表されているので、防除の参考にしてください。

宮城県病虫害防除所ホームページ 防除情報第2号「水稻・葉いもち」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/45756/r05bojono02.pdf>

【参考】BLASTAM（ブラスタム）による葉いもちの感染好適条件の推定結果は、病虫害防除所のサイトをご覧ください。<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>

#### ②紋枯病

- ・出穂期以降は病勢進展が盛んになるので発生に注意しましょう。特に上から4番目の葉鞘以上に発病すると被害が発生し、上位に病斑が進展している株ほど被害が大きくなります。
- ・高温多湿が発生好適条件で、気温が高く降雨日数が多いと株間湿度が高くなり感染が広がりやすくなります。
- ・前年に発生が多かったほ場では、多発のおそれがあります。穂ばらみ期の水面施用剤、出穂期頃の茎葉散布剤で防除しましょう。
- ・病斑は、水際の葉鞘に現れるので、茎葉散布剤による防除では、株元に薬剤（液剤、水和剤、粉剤）がよく付着するよう十分な薬量で散布しましょう。
- ・要防除水準は、稲作情報第4号（7月3日発行）を参照してください。

③斑点米カメムシ類

- ・ 出穂期が平年より早いと予想されていますので、適期防除を心がけてください。
- ・ **水稻の出穂前後の畦畔の草刈りは、斑点米カメムシ類を水田内に追い込むことになるため、水稻が出穂する 10 日前までに行います。**また、草刈りの再開は 9 月に入ってからにしましょう。
- ・ 薬剤防除は、**穂揃期とその 7～10 日後の 2 回防除が基本**です。2 回目の薬剤散布以降も斑点米カメムシ類の発生がみられる場合は、追加防除を実施しましょう。
- ・ イヌホタルイが発生した水田で除草できなかった場合は、1 回目の薬剤散布を「出穂始から穂揃期」に早めることで、斑点米カメムシ類の密度を低下させ被害を軽減できます。

(2) 乾田直播栽培

基本的には移植栽培と同じ管理になりますので、上記(1) 移植栽培を参考にしてください。

5 東北地方の向こう 1 か月の天候の見通し (7/20 仙台管区気象台発表)

予報のポイント

- ・ 暖かい空気に覆われやすいため、向こう 1 か月の気温は高いでしょう。特に東北太平洋側では、7 月 26 日頃から気温がかなり高くなる見込みです。
- ・ 降水量及び日照時間はほぼ平年並の見込みです。

次回の稲作情報第 7 号は、8 月中旬頃の発行となります。